

眼科この1年

眼科医長 花田 一 臣

人事異動

平成15年は当初花田一臣、井上玲の2名体制で診療を当たっておりました。4月に井上が市立稚内病院へ医長として転出し、倶知安厚生病院より池洋一郎が赴任し現体制となっております。当院で研修を積んだ井上医師が最北端の地で眼科診療の要となりましたことには感慨深いものがあります。

診療状況

昨年と同様、医師2名、看護師2名、視能訓練士1名で対応しております。外来は月曜日から金曜日までの午前と月曜日の午後に2診で行っており、来院患者数は1日平均102名で前年とほぼ同数となっております。これまで手術や特殊検査に限り予約制をとっておりましたが、本年度より一般診療でも予約診療を充実させることを目標とし、緑内障や糖尿病網膜症の定期受診、術後患者を中心に再来予約に努めております。来院日が決まるので助かるとの声がある一方で、日程が限定されると窮屈だとの声もあり、完全予約制は難しい現状です。また予約の無い方の待ち時間の増加など新たな問題点も現れてきました。

火曜日と金曜日の午後は手術日で白内障手術を中心に、外来では視能訓練士による視野検査などの各種視機能検査を行っています。水曜日の午後は蛍光眼底造影などの特殊検査とレーザー光凝固や霰粒腫切開などの外来手術、木曜日の午後はコンタクトレンズ初心者に対応した専門外来を行っています。周辺に眼科の開設が無いため、その他の時間でもできるだけご要望に応えられるよう、柔軟な対応、腰の軽い診療体制を心がけています。

入院・手術

入院は白内障手術目的がほとんどで一日平均5名が入院しています。毎週4例から6例の手術を

行っており、定期手術の入院待ちは1ヶ月程度で、手術希望から入院まで比較的スムーズに行えております。

平成15年度の年間手術件数は240例で前年度より50例ほど減少しています。内訳では昨年に引き続き白内障手術件数の減少が目立ちます。しかし、いまだに高度の視力障害があるにもかかわらず辛抱し、家族に手を引かれるようになってようやく来院するような患者さんもあり、眼科地域医療の充足にはまだまだと言った感があります。

また、昨年より角膜疾患に対する手術も対応できるよう体制を整え、本年度も角膜移植術1例を行うことができました。外来にもこの地域の角膜移植手術後の患者さんが多く訪れてくださるようになってきました。角膜移植は手術そのものよりもむしろ術後経過に主眼を置くべきであり、安心な術後経過を送っていただけるよう外来診療にも力を入れています。また網膜剥離などの比較的緊急性を要する後眼部に対する手術もできるだけ当院で行うように努めております。前眼部から眼底後極部にいたるすべての眼科領域にわたる診療に対応できるよう日頃の備えを怠らず、地域における要として専門的治療と緊急対応を兼ね備えた眼科診療を目指していきたくと考えております。

平成15年度手術件数

白内障手術	201例
眼内レンズ縫着・2次挿入	2例
翼状片	15例
眼瞼手術	5例
緑内障手術	2例
網膜剥離手術	3例
角膜移植術	1例
結膜腫瘍切除術	3例
斜視手術	1例
外傷・その他	7例
計	240例